


学術機関リポジトリについて



千葉大学 阿蘇品治夫
asoshina@LL.chiba-u.ac.jp

本日の内容



学術機関リポジトリとは
試行運用
本格運用
千葉大学の取り組み -CURATOR-

平成17年2月14日

於：横浜国立大学





学術機関リポジトリとは (Institutional Repository : IR)

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



定義



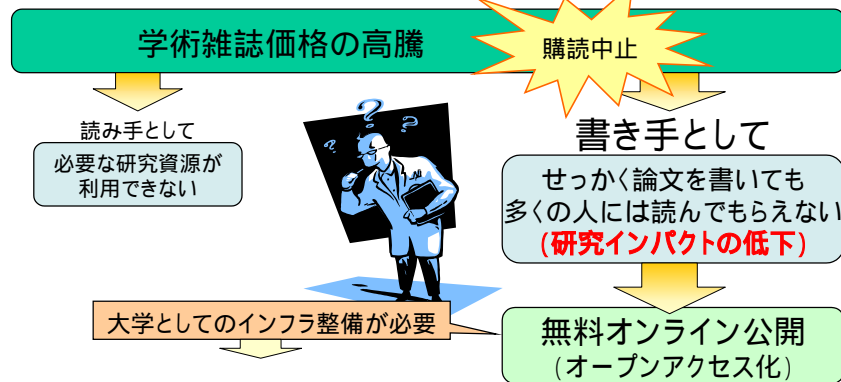
- 定義
「大学等の学術機関内で生産された、さまざまな学術情報を収集、蓄積、配信することを目的とした、インターネット上のサーバ」
- クロー (Raym Crow) によれば
「単独あるいは複数の大学コミュニティの知的生産物を捕捉し、保存するデジタル・コレクション」
生産者は学術機関の構成員。コンテンツは学術的価値を有するもの。累積的かつ恒久的に維持し、相互運用性とオープン・アクセスの保証。
- リンチ (Clifford A. Lynch) によれば
「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



背景 - 学術コミュニケーションの危機 -



学術機関リポジトリ

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



ねらい



- オープンアクセス(無料公開)による読者獲得
研究成果の可視性(visibility)向上 & 伝播拡大
研究インパクト回復 ~ 維持 ~ 向上
 - 機関の研究活動成果の固定と保存
 - 研究機関としての知名度向上
 - 教育・研究活動に係る社会への説明責任の履行
 - 学術コミュニケーションへの積極寄与による図書館の
存在感向上
- 等等……………。
- IRはそもそも研究者本位。それ以外は副次的な意義。

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



特質



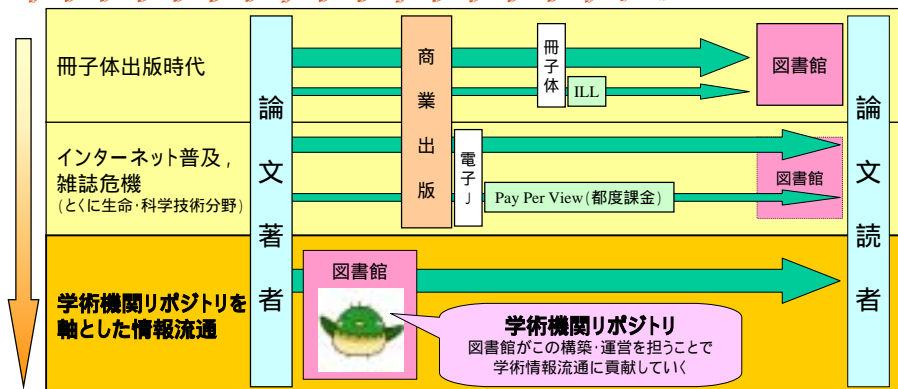
- ❑ 学術コミュニケーション振興 = 研究者支援こそが第一義である。
- ❑ セルフアーカイブ(自主保管)の基盤システムである。
- ❑ 研究者のみならず、大学や図書館にとっても副次的メリットがある。
- ❑ 収録コンテンツは学術雑誌掲載論文を主体とする。
- ❑ メタデータ流布のために、OAI-PMHに準拠する。

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



図書館が関わる理由



従来果たして来た役割の延長線上にある

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学





試行運用

- とりあえず始めてみる

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



どうするか



□ できる範囲で

- ✓ 賛同が得られる身近な小数の研究者の協力
- ✓ 学部・分野を絞ってはじめる, という手も
- ✓ 無料ソフトウェア (Dspace, Eprints)
- ✓ 適当な型落ちパソコンがあればOK

ともかく動くモノを仕立て, 学内説得の材料に。
システム面のサポートはNII-IRPへ。

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



参考情報



- DSpaceとEprintsのインストール手順
 - ✓ NII-IRPにて検証・公開中
<http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/dande.html>
 - ✓ IRP各大学の構築例
http://www.nii.ac.jp/metadata/irp/karuzawa_repositories.html

- 初期データ構築用のコンテンツ例
 - ✓ 学部・研究室・個人のWebサイトで公開中のコンテンツ
 - ✓ 電子化済み学内出版物(紀要等)
 - ✓ 電子化済み学位論文(紀要等)
 - ✓ IR登録が可能な雑誌(Green Journal)に掲載された論文

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



本格稼働に向けて - 合意形成、制度、体制・・・

平成17年2月14日

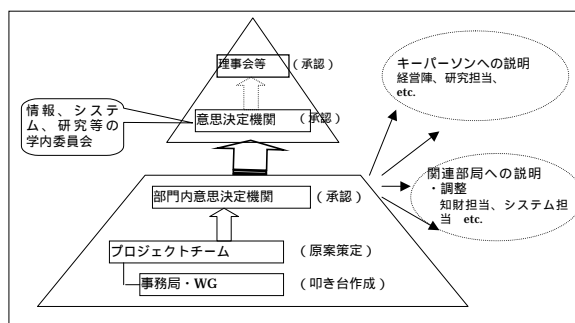
於: 横浜国立大学



学内合意形成



- 大学の1事業としてオーソライズ
 - ✓ ボトムアップorトップダウン



平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



学内合意形成



- メリットの強調
 - ✓ 大学経営者にとってのメリット
 - 教育・研究活動に係る社会への説明責任の履行
 - 中期計画・中期目標の具体的方策として
 - 研究業績集約の事務合理化(研究者にとってもメリット)
 - ✓ 研究者にとってのメリット
 - 研究インパクトの向上
 - ✓ 図書館にとってのメリット
 - 学術コミュニケーションへの寄与
 - 大学評価への貢献, 学内における存在感の向上
 - 図書館活動のレベルアップ

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



制度と体制



□ 運用指針の策定

- ✓ 誰が、何を、どうやって登録できるのか。
 - ✓ 著作権についてはどうなっているのか。
 - ✓ 登録したコンテンツを削除できるのか。
- 等々を規定。

「千葉大学学術成果リポジトリ運用指針」(平成17年2月)

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



15

制度と体制



□ 検討・運営体制

- ✓ 部門内意思決定機関
 - 活動方針の承認
- ✓ プロジェクトチーム (図書館、教官、関係部局)
 - 中長期的方針の立案、重要案件の検討
- ✓ 実働部隊 (図書館内の戦力)
 - 各種調査、原案づくり、日常業務(コンテンツ受付、メタデータ整備、著作権調査、質問対応、PR、システムメンテ etc・・・)

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



16

学術機関リポジトリと著作権

□ IRの当事者 - 4つの立場

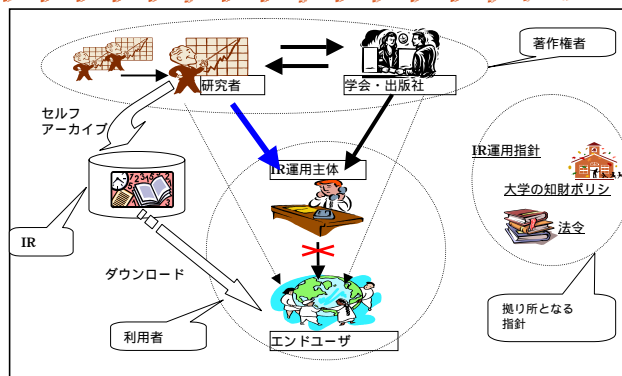
当事者	立場	内容
研究者	著作権者	原著作者である
出版社・学会等	著作権者	原著作者から権利の全部/一部の譲渡/許諾を受けている
運営主体（図書館等）	利用者	複製、公衆送信を行う
エンドユーザ	利用者	閲覧、ダウンロードする

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



学術機関リポジトリと著作権



の手続き確立と書面の用意
の情報を研究者に提供(出版社のIR登録許諾状況)

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



学術機関リポジトリと著作権

- ProjectROMEO(英国) の成果
 - ✓ 著作権方針を各出版社・学会にアンケート
 - ✓ 92%の出版社がIR登録を認めるという「望ましい」結果。しかし……。
- 日本版ROMEOへの期待
 - ✓ 千葉大の先行調査(39学会対象)
国内学会は方針を決めかねている段階？

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



コンテンツ登録促進

- 登録コンテンツの量と質こそIRのすべて
 - ✓ 中身がないとはじまらない。
 - ✓ 実はこれが一番肝心なこと。
 - ✓ とはいっても、図書館が思いどおりに登録してくれることは期待できない。
それはなぜかというところ - - - -。

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



考えられる障壁



- インセンティブの欠如
 - ✓ 自分のウェブサイトで既に公開している
 - ✓ どんなメリットがあるの？
 - ✓ 登録しなくても何のペナルティもない
- 登録行為に対する抵抗感
 - ✓ 登録に手間がかかる
 - ✓ 時間がない
- 著作権に関する懸念
 - ✓ (特に学術誌掲載論文の場合)登録する権利があるの？



平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



除去するための方策



- インセンティブの欠如
 - ✓ メリットの強調(アメ)
 - ✓ 強制力(ムチ)
- 登録行為に対する抵抗感
 - ✓ 使いやすい簡易な登録インターフェイスの提供
 - ✓ 図書館員による登録支援
- 著作権に関する懸念
 - ✓ 出版社のポリシーの報知

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



「緑化誌」の登録



- 中身としてのふさわしさ
 - ✓ 査読済・品質保証
- ProjectROMEO
 - <http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php?all=yes>
 - ✓ 90%超が緑化誌(あらかじめIR登録について許諾済)
 - ✓ ポストプリント/プレプリント
 - ✓ 著者版/出版社版
- 学内教官向け登録依頼

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



システム構築



- オープンソース
 - ✓ DSpace, Eprints (IRPで導入検証中)
 - 市販製品
 - ✓ 国内4社
 - Infocom <http://www.infocom.co.jp/km/infolib/index.html>
 - CMS <http://www.cmssc.co.jp/E-repository/>
 - 富士通 http://software.fujitsu.com/jp/ilis_univ/surf/
 - USACO <http://www.usaco.co.jp/top.html>
 - 独自開発
- いずれも錬度は…………。

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



OAI-PMH <http://www.openarchives.org>



- リポジトリシステムは、OAI-PMH準拠するのが通常
- メタデータ交換用のプロトコル(規約)
 - ✓ 単純な6種の要求文の組み合わせ。HTTPで発行、XMLで返戻
 - ✓ メタデータ収穫 = ハーベストを実感してみる
 - Repository Explorer <http://re.cs.ucl.ac.za/>
 - Internet Explorer (ブラウザ) 皆さんのPCで
- データプロバイダ(メタデータ提供者)
 - ✓ 各リポジトリ、メタデータのための提供サイト、
- サービスプロバイダ(メタデータ収集 & 再提供者)
 - ✓ OAIster, Citebase, Junii
- 千葉大のシステム概念図参照

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



OAI-PMH



- ハーベスト要求文の例
<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/cgi-bin/oai/oai2.0?verb=ListRecords&from=2004-11-02&until=2004-11-02&metadataPrefix=junii>
千葉大のIRよ、04/11/2 に作成(更新)したメタデータをjuniiフォーマットで返せ。
- プロトコルについての詳細(NIIのWebサイト)
<http://www.nii.ac.jp/metadata/oai-pmh/>
メーリングリストもあり

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



検討課題一覧



千葉大で取り組んだ(取り組み中)の課題
別表参照

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



リポジトリ数、登録コンテンツ数



- 機関リポジトリ数 144件 (アーカイブ総数276)
- 登録コンテンツ数
 - ✓ 総計 300,000件超 (MIT等一部機関で突出)
 - ✓ 中央値 290件程度 (45のリポジトリ)
Pathfinder Research on Web-based Repositories (2004.1)

世界もまだまだ、この程度。十分追いつける。

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学





千葉大学の取り組み

- 経緯、システム、課題 等

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



経緯



□ 平成14年度

- ✓ 5月 「第1回学術情報の発信に向けた図書館機能改善連絡会」(研究振興局情報課)
- ✓ 6月 館内ワーキンググループの設置(「[千葉大学学術情報リポジトリ\(仮称\)計画](#)」開始)
- ✓ 8月 プロトタイプの開発開始
- ✓ 10月 学内教官向けアンケート実施
- ✓ 1月 『SPARC学術機関リポジトリチェックリストおよびリソースガイド』翻訳着手
- ✓ 3月 プロトタイプ完成

平成17年2月14日

於：横浜国立大学



経緯



□ 平成15年度

- ✓ 4月 『[SPARC学術機関リポジトリチェックリストおよびリソースガイド](#)』翻訳完成, 公開
- ✓ 5月 国立情報学研究所との間でOAI-PMHによるメタデータ・ハーベスティングの実験
- ✓ 7月 「学術情報発信に関する懇談会」
- ✓ 8月 第1回「学術情報発信のための協力者会議」
- ✓ 12月 第2回「学術情報発信のための協力者会議」
- ✓ 3月 第3回「学術情報発信のための協力者会議」
プロトタイプの改造に着手

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



経緯



□ 平成16年度

- ✓ 7月 東京新聞に[記事](#)掲載(15日)
- ✓ 7月 附属図書館運営委員会の下に「学術情報発信専門委員会」設置予定
- ✓ 運用指針類の原案整備
- ✓ 9月 緑化誌掲載論文調査
- ✓ 11月 ホームページリニューアル
- ✓ 12月 学術情報発信専門委員会
- ✓ 1月 緑化誌掲載論文の提供依頼 国内学会調査
- ✓ 2月 運用指針策定 年度内正式スタート予定

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



検索インターフェース



平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



システム改良点



- 登録インターフェースの改良
 - ✓ ウェブインターフェースの簡略化
 - ✓ 一括登録
- 利用(検索)インターフェースの改良
 - ✓ ブラウジング機能
 - ✓ リンク検索機能
- リポジトリのホームページ開設
 - ✓ <http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/>
 - 登録、検索、参加申請、参考文献類 などあらゆるIR関連情報への入り口

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



課題



- 学内合意
- 正式スタート後の体制
- コンテンツ登録促進
- 学内広報・プロモーション

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



まとめ—今後の展望



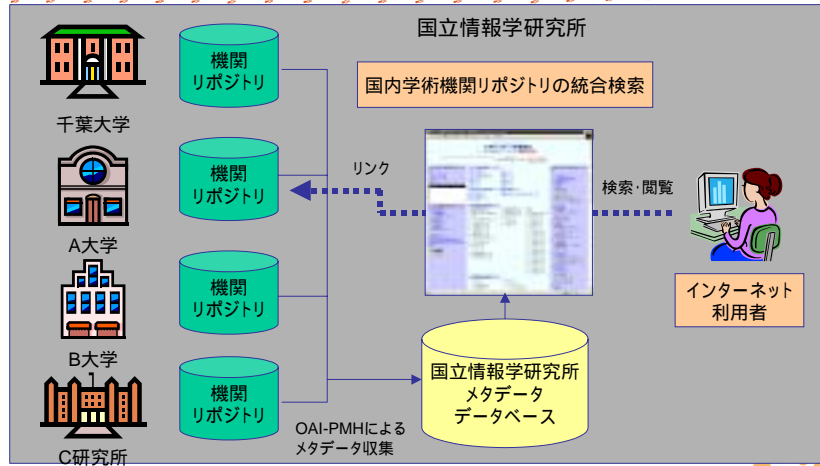
- リポジトリ共同体
 - ✓ 課題解決に向けた知識, 経験, 技術の共有
- 大学図書館とNIIのコラボレーション
 - ✓ 大学図書館
 - リポジトリの構築と運用
 - 学内の学術情報を収集, 保存(データ・プロバイダ)
 - ✓ 国立情報学研究所
 - 各大学のリポジトリ構築支援
<http://www.nii.ac.jp/metadata/irp>
 - 各大学のリポジトリに対する総合的窓口機能(サービス・プロバイダ) <http://ju.nii.ac.jp>

平成17年2月14日

於: 横浜国立大学



理想像



平成17年2月14日

於：横浜国立大学

41